

国際交流事後活動ニュース

# MACRO COSM

◎カラー特集 SSEAYPインターナショナル第15回総会

マクロコズム 2002.7



vol. 47

(財)青少年国際交流推進センター

15th SSEAYP International General Assembly  
 Hand in Hand, Face to Face,  
 From My Heart to Your Heart  
 Tokyo, Japan May 16-19, 2002



▲ 総会開会式であいさつをする江崎内閣府政策統括官

# SSEAYPインターナショナル

## 総会



▲ 第15回総会実行委員長を務めた田中日本青年国際交流機構副会長による開会あいさつ

今回の大会では、ブルネイの交通事故で亡くなられたマレーシア、インドネシアのナショナルリーダーの遺児へのSSEAYPインターナショナルからの奨学金授与を含めて、亡くなられた方々への追悼セレモニーも行われました。



▲ 昨年のブルネイにおける交通事故で亡くなられたマレーシアのナショナルリーダーのお兄様による遺族代表あいさつ



▲ 第28回「東南アジア青年の船」日本参加青年による事業報告



アセアンからの220余名の参加者を得て300名を超える大会となりました ▶

# 第15回総会

(2002. 5. 16 ~ 5.19)



▲ 昨年の総会開催国であったタイ同窓会の会長から記念品贈呈をうける福田内閣官房長官



▲ 青年海外派遣のOBでもある武藤元総務庁長官による乾杯

## ウェルカム・レセプション

▼ シンガポール参加者によるパフォーマンス



◀ 分科会の発表

## 分科会



◀ 「東南アジア青年の船」の将来を語る分科会で、リード役を務める森田SSEAYPインターナショナル事務局長



## SSEAYP インターナショナル第15回総会

5月18日 総会の翌日は、交流プログラムとして富士山観光、静岡県青年国際交流機構の協力による富士山麓での交流、箱根、鎌倉、都内の5コースが生まれ、雨模様ではありましたが、楽しい1日となりました。フェアウェル・パーティの前には、裏千家のご協力もいただいて呈茶が行われました。



▲ 箱根 “大湧谷”

### 交流プログラム



▲ 富士山の麓にて、静岡IYEOの協力を得て交流会



◀ 芦ノ湖にて



▲ 裏千家のご協力でアセアンの皆さんにお茶席を体験してもらうことができました

▼ 各国代表の勢ぞろい。来年はマレーシアでの開催



### フェアウェル・パーティ

## 坂本 達 講演会 (PART II)

### 「旅する自転車、100万回のありがとう」

於：東京全日空ホテル



**【スライド14】** アフリカの東部に行きますと野生の王国です。アフリカにこれから行かれる方がいらっしゃったら参考にさせていただきたいのですが、西部は人を見に行けと言います。人の文化、生活感があって楽しいんです。また動物を見るなら東に行けと。東の方は野生動物や景色の美しい所がたくさんあります。これはタンザニア、「象注意」という道路標識で、象とかシマウマとかキ

リンとかインパラとかが道に出てきます。これは象の落とし物なんです。実際にこの茂みから出てきて用を足してこう抜けて行きました。象のおしっこも見たことあるかたいらっしゃると思いますが、地面が掘り返されるくらいものすごい勢いでおしっこをするんですね。バケツをひっくり返したようなおしっこです。

**【スライド15】** これはチーターです。こういう野生動物、ライオンがいるようなところは国立公園ということで、自転車は入ることができませんので、これはサファリカーで走っていたときの一枚です。

**【スライド16】** この写真わかりますか？ アフリカの南部、国でいうとボツワナです。雲が移動しまして、雲の下だけ向うが見えないほどのすごい雨が降っているんです。私が写真を撮影した場所は晴れて太陽が見えているんですね。こういう不思議な雨の降るところが南部には多かったです。

#### ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 主な内容 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

坂本 達 講演会 (PART II)……………5～9	航空機派遣事業報告会
「旅する自転車、100万回のありがとう」	パネルディスカッションより……………12～16
あの人にインタビュー……………9～10	会員の声……………17
～船事業をこよなく愛する方の登場～	IYEO全国のご案内……………18
四国ブロックIT講習会開催あれこれ……………11	お知らせ……………19～20

#### 〈表紙の説明〉

第8回「世界青年の船」団員  
矢口 稔さんの写真集より  
(ソロモンに青年海外協力隊員  
として赴任の際の記録より)

【スライド17】これがアフリカ最後の写真になります。13か月をかけて縦断した最後のほう、ナミビアのナミブ砂漠という赤砂漠です。これは4年間回った中で一番美しかった自然だと思います、砂の一粒一粒が本当に赤くてきれいなんです。朝まだ6時くらいの景色ですので、太陽が下のほうにあってコントラストができて非常に美しい。ただこれも10時くらいになりますと気温が40度、50度と上がるような所です。

【スライド18】ここでいったんアフリカを終えて2年目の途中からシルクロードに移ります。絹の道を、トルコを起点として一路中国を抜けてベトナムまで、一年半かけて走りました。トルコの人たちも非常に親日的です。日本人に好意をもってくれていますので、私もたくさん良い思い出をもらいました。日本のようにお茶でもてなすというのにも私は親しみを感じていました。まずこのお茶をいれてくれてトルコ語でお話をする。そういうお国柄でしたのでたくさんのトルコ語を覚えました。

【スライド19】これはトルコ東部に住むクルド人の子供達です。彼等は自分達の国を持っていませんので、生活的には厳しい環境にあります。家に寄らせてもらいますと、写真が一枚もないので子供達の写真をとってほしいとお母さんに言われてとったときの一枚です。お母さんが20分くらいかけて一番綺麗な服に着替えさせてとった一枚です。良い写真がとれたと思って、送る時によく見たら、この男の子のズボンのチャックが全部開いていたんですね。女の子もパジャマが片方の足からのぞいていたり、ちょっと大事なところをお母さんは忘れてしまったんですけれども。この写

真を送りました。

【スライド20】トルコを抜けると次はイランイスラム共和国です。これはマシュハドというアフガニスタンの国境すぐ側の町でイスラム教徒シーア派の聖地です。シーア派の人は一生に最低一度はここに巡礼に来るのが夢ということで、24時間信者が絶えることがありません。私も髭を生やしていますので、イスラム教の国ではかわいがってもらいました。そのひげは輝いているとか、ご利益があるよとか言われまして、調子に乗って一緒にお祈りにも行かせてもらっていました。

【スライド21】市場に行きますと薬を売っておりまして、はげに効く薬だと思うのですが、これを飲めばこうなるということで（使用前、使用後のイラスト）、アフリカも髪の毛が薄いのを気にしますし、アジア地域も日本も、アメリカも南北含めて、これは本当に人類共通の悩みようで、こういうのを見ると本当にほっとします。なんだおまえらもか、みたいな感じです。

【スライド22】世界で一番暑くなる砂漠は、イランのルート砂漠だそうです。アフガニスタンの真南のほうになります。私の走った6月になると54度を記録しました。54度になりますと道路のアスファルトがゆるんでくる。部分によっては溶けている所もあるくらいです。一番しんどかったのが日影がないということです。屋外スポーツをやっているかたは夏日影がないとどれだけしんどいか想像つくと思います。そういうときに私を助けてくれたのがこのトラックの人たちでした。トラックの影です。運転手さんたちも一日に1,000キロ以上走りますのでお昼や夕方、トラックから降りてお茶を入れてゆっくり休憩をとるま

す。それに入れてもらうのが唯一のオアシスです。遠くにトラックが見えると頼むから出発しないでくれと祈りながらたどりついて、トラックの影に入れてもらいます。自転車というのは一人で走っているイメージがありますが、実際本当にいろいろな人に助けられて初めて走れるということです。トラックの運転手も非常に親切で私がゆっくり走っていると追い越す時に反対側の車線を一番遠くまで避けて追い抜いてくれるんです。これはトラックの風圧でハンドルが振れないようにという心遣いなんですけれど、本当に親切で、言葉が違って宗教が違って、人を思いやる心というのは共通であると思いました。

【スライド23】実は私はこの直後、暑さのあまり倒れて、走れなくなり、トラックに拾われたんです。その後心的なショックやまた自信を無くして、砂漠の残りを走れなくて列車で移動しました。ですからこれは列車の窓からとった一枚です。本当に死の世界なんです。座っているだけで一日に4～5リットル水を飲むという、本当に胃に穴が空いているんじゃないかと思うような所でした。

【スライド24】列車で同室になった現地の方は、このように妙にリラックスしているんです。現地の方はひたすら時間が経つのをマイペースで過ごしている。私のように心配ばかりしていると逆に自分の首を締める。現地の人に見習わなければいけないということで、この写真をとらせてもらいました。

【スライド25】砂漠を抜けるとパキスタンに入ります。「風の谷のナウシカ」という宮崎駿監督の映画をご存知かと思いますが、その風の谷の舞台となったのがこのフンザという谷だそうです。



不老長寿の谷としても有名な所で、80～90歳というご高齢の方がまだ畑仕事をしています。

【スライド26】これはフンザにかかる橋です。現地の人はこういうつり橋を渡って生活をしています。長さが200メートルくらいあったかと思いますが、私も興味本位でこの橋を渡ってみたのですが、よく見ますと細い板がワイヤーに挟んであるだけで、これも落ちることもあるかと思いますが、一番怖かったのが振動です。自分一人で歩いているときは調子を合わせられますが、前からか後ろからか人が来ますと、前後左右に揺れて、もう酔うくらいの揺れで、本当に渡るのを後悔したくらいです。日本ですと川に橋があるのが当たり前ですが、ここでは橋が一つあれば何十キロも回り道をしないで済むので、そのありがたさを実感します。

【スライド27】これもパキスタン北部、ギルギットのバザールでの一枚です。3人の真ん中にいるのが私です。1日の収入が平均300円くらい、1か月働いて90ドルくらいの生活をしているにも関わらず、私にこの白い民族衣装をプレゼントしてくれたんです。どうして自分より金持ちの人にそういうことをするのかと不思議に思って聞きま

すと、それは金の問題ではないのだと言われました。どういふことかと言いますと、要するに彼らは飛行機代がなく日本に行くことができない。だから彼らは自分たちの文化、国、イスラムという伝統の良さを伝えたいのだけれど伝えられない。それを僕にほどこすことによって、僕が日本に行ったときにそれを伝えてほしいと。つまりお金の問題ではなくてプライドの問題だったんです。自分の国とか自分自身とかに誇りを持つということがすごい大切なんだということを教えられた気がします。

【スライド28】これもパキスタンの北部です。彼らの家に泊めてくださいとお願いをしますと断られました。なぜかと言いますと、奥さんが家の中にいますので、私が家の中に泊めてもらおうと既婚の女性が旦那さん以外に顔を見せることになりまますので、それはできないということです。意地悪をしているのではなくて文化の違いですね。家の中に泊めてもらえませんでしたので、家の横にテントを張らせてもらいました。そうしましたら、おじさんがこのように朝ご飯を運んでくれました。この黄色いのがテントで、テントの中から朝ご飯とおじさんの写真をとらせてもらいました。このとき非常に嬉しかったのが、私が朝起きますと、いいタイミングでテントの外に顔を洗うお湯を持ってきてくれるんです。朝早く起きて僕のテントが揺れるのを待っていて、揺れると起きたなということで、薪で温めておいた湯を持ってきて顔を洗えと置いてすぐになくなるんです。私が顔を洗い終わった頃に洗面器を下げに来てくれて、一息つくとも今度はご飯を持ってきてくれるんです。彼らにできるかぎりの精一杯のおもてなしをしてく

れるのだと心を打たれました。

【スライド29】パキスタンの後は中国のラサ、ポタラ宮です。かつてダライラマがいた大きい宮殿で11階建です。ラサは標高3,600メートル、富士山とほぼ同じくらいの標高にあります。この写真は朝日の当たる宮殿をとるために、冬ですとマイナス20度という中、一週間くらい毎朝日の出前から通いつづけてとった1枚です。

【スライド30】これはチベットの標高5,000メートルくらいの峠で一晩明かした朝です。日本で準備をしていたときに地図を見ますと、世界の屋根ヒマラヤ山脈にここだけ道路が通っているんですね。それを見たときに僕はすごい身震いをする感動を覚えて絶対にこの道を走りたいと思いました。この下に見える湖はヤムデュク湖と言いまして聖なる湖の一つということです。標高が高いので木などはいっさい生えていません。

【スライド31】チベットでも現地の人にお世話になりました。標高4,000メートルの所でも人が暮らしています。薪がありませんので家畜の糞を乾燥させたものを燃料に使っています。現地の人々の食事は麦の粉、サンパというものにバターを入れたバター茶を混ぜて食べます。正直いってあまり飲み込めないんですね。団子状になって。けれども現地の人たちはこんなものを食べて、野菜も食べられない標高の高い所でやっつけられるんだ。この人たちと同じものを食べれば走れるだろうと思って、一生懸命現地のものをいただいているところです。

【スライド32】この家の正面がこの写真です。この時点で2年以上走っていますが、2年以上走っていますと、どの家に行けばいいか、お世話にな



ればいいのか、だいたい臭いでわかるようになりました。ある村とか集落とか地域に行きますと、空気を感じて、例えば子供達の目つきとか、家の前の掃除の仕方とか、家の修繕の仕方を見て、あまり良くない所は、村長が昼間から酒を飲んでいたりとか、また逆に子供がにこにこして、家の前もきれいに掃除してある所は、村長さんが威厳を持っている。あまり雰囲気が良くない所はできるだけ早く立ち去るようにしていました。

著書「やった。」

～4年3ヶ月も有給休暇をもらって 世界一周5万5000キロを 自転車で走ってきちゃった男～  
写真・文/坂本 達 出版社：三起商行(株)  
四六版 240 ページ 本体価格 1,700 円

●「夢の実現」と「一人なのに一人じゃない」 そう思えた瞬間を、約 250 枚の美しいカラー写真とともに綴ったフォトエッセイです。

●この本の印税はすべて、旅で巡り合い助けてくださった方々にお返しいたします。

URL: <http://www.mikihouse.co.jp/tatsu>

あの人にインタビュー

～船事業をこよなく愛する方の登場～

4回の船事業の管理官を務められた駒形健一内閣府政策統括官推進担当参事官に、在任の4年間を振り返ってその思いを伺いました。(第11回及び第14回「世界青年の船」、第26回及び第27回「東南アジア青年の船」)

Q. 上記4事業に参加され、それぞれに深い思い出があると思いますが、それぞれの事業に対する印象を一言で表現していただけますか？

A. 同じ事業でもさまざまです。一言&タイトルを考えてみました。

第11回「世界青年の船」…

明るい！「ドルフィンと大騒ぎ」

第26回「東南アジア青年の船」…

元気！「でも別れはつらいよ」

第27回「東南アジア青年の船」…

素直！「ミンガラバー・インドネ～～シア」

第14回「世界青年の船」…

面白い！「劇場にっほん丸」

Q. 事業中の公式な場でのスピーチも多かったと思いますが、ご苦労されたことは？



▲ 第26回「東南アジア青年の船」のジャカルタでの船上レセプションにて

A. 特に、「東南アジア青年の船」事業はスピーチが各国2回以上、全部で20回近くあり、とても多いため、出航前に予め原稿を作成しておくのですが、それでも間に合わず、船の中で港地前日にスピーチを仕上げるという自転車操業でした。通訳の方に手伝ってもらいましたが、でも、本番直前に、その時の状況や参加青年の気持ちを考えて、必ず自分で手を入れました。とにかく、スピーチは、参加青年に向かって気持ちを通じ合わせる、BIGチャン

スでしたから、こちらのちょっとした一言で笑ってもらえると、自分と参加者の何とも言えない一体感が得られました。これも日頃からの参加者とのコミュニケーションが大事だと実感しました。ただし、首相表敬などでは、精一杯まじめにしゃべっていましたが。

また、最後の修了式でのお別れのスピーチは、こちらも力が入って、つたない英語力を駆使して自分の手で一生懸命つくりましたが、終了後のみんなの拍手と涙がそれまでの苦労を限りない充実感に変えてくれました。（「世界青年の船」の日本参加青年だけの修了式では、思いっきり万歳三唱をしてましたが。）

Q. 事業を統括される立場で事業に関係されてご自身が得たものは何ですか？

A. 日本の若い人のみならず、各国の若い人達に囲まれ、各々50日近く、合計200日ぐらいになりますが、共同生活をするという稀有な体験ができ、その溢れるような思い出だけでも、人生のかけがえのない財産です（それは頭の記憶だけでなくビデオに大事に撮ってありますが）。

また、多くのPYたちに感謝され、（尊敬されていたかどうかは？ですが）好かれるという体験も、どのような公的なポストについても決して得られないものだと思います。そして、今でも、また、将来にわたって、一緒に船に乗った仲間の成長を共に喜び合いながら生きていくことこそ、最大の財産です。

さらに、各事業での様々な現場の苦労も、霞ヶ関で机に向かっては想像できないもので、現場感覚をほんの少しですが身につけることが出来、その立場にある人の気持ちが幾分かでも分かるようになったことは、これからの人

生の糧となるのではと思っています。

Q. 駒形参事官は、IYEO 会員との交流を大切にしてください、また組織に対する前向きな理解を示してくださっていますが、今後活動組織としてのIYEOに望むことはどのようなことですか？

A. IYEOにはこれからも益々発展していったほうがいいですが、国の国際交流事業の支援のみならず、各国同窓会組織との連携を更に強くして行って、国際交流のみならず幅広くいろんな分野でのボランティア活動に進出してほしいと思います。できれば赤十字のような世界的な存在になってほしいですね。人のネットワークこそこれからの時代を切り開いていく源泉だと思います。お金や思想に縛られない、友情という共通の基盤に立つ人間のネットワークを、国際的に広げていくことは、アメリカや国連さえ困難な、極めて価値のある尊敬されるべき作業です。21世紀の人間社会の最先端を担っているという自負で大いに飛躍され、活躍されることを期待します。

Q. 最後に、今後、内閣府青年国際交流事業の既参加青年に期待することは何ですか？

A. 日本参加青年同士、また、各国参加青年との間で培われたネットワークをこれからも大事にして、より強くして行ってください。人は一人では孤独で力が出ないもので、いくら能力があっても限界があります。人間の脳もそうですが、ネットワークこそ、一人の力を何倍にも何十倍にもしてくれる打出の小槌のような不思議な力の源泉です。これからの時代は必ずしも明るいとは言えないかもしれませんが、皆さんの事業で得たパワーをここぞという時に発揮してくれる ex-PYであることを願っています。

## 四国ブロックIT講習会開催あれこれ

四国ブロック幹事 島田 和則

四国ブロックでは近年、各県活動の更なる活性化を図るため、四国4県相互支援体制を模索してきました。その一つの方策として四国メーリングリスト開設および各県にIT部員を置くことを決定しました。当時四国ブロックでホームページを開設している県は無く、2月の全国推進会議の席でホームページ作成講習会の開催について四国の会長同士で検討した結果、講習会を開くことを決め、4月6日には酒井事務局次長を講師に招き実行しました。四国4県からIT部員が使命感を担いで香川県に集まり、4県ともホームページが無

今年2月に開催された全国推進会議でIYEO都道府県組織ホームページの整備についての承認が得られ、今年中に作業に取り掛かることになりました。ホームページ作成が出来る人材の発掘および育成が急務となっていたところに、島田四国ブロック幹事から「ホームページ作成講座の講師として四国に来て下さい」とのメールをいただきました。突然の依頼でしたが、直感的にこの講習会が意義のあるものになると思えました。

講習会の目的を「ホームページ作成の意義とノウハウを学び、モチベーションを高める」こととし、IT時代の情報の取り扱いについての講義およびホームページ作成演習を行うこととしました。ソフトウェアの進化によりホームページの作成は

事開設され、全世界からアクセスできるようになりました。今後は、継続的に更新するよう、各県で活用指針を明確にし、無理がない運営体制を確立する必要があります。

全国で既にホームページを運用されている道府県の方は、この過程を笑顔で振り返られていると思います。私たちは遠く四国ブロックに流れるゆるやかな時間の中でワイワイしながら、少しでも前へと頑張りますので、今後ともご指導をよろしくお願いします。

日本青年国際交流機構事務局次長 酒井 昇

格段に簡単なものとなったので、演習では実際にホームページの作成からサーバーへのデータ転送までを体験してもらい、コンピュータへの抵抗感を払拭させることがねらいでしたが、参加して下さった方の熱意により、2日間のうちに無事にホームページの作成が完了しました。見事に第1の壁を突破した四国ブロックの皆さんには、今後継続的にホームページを更新するよう努力を続けていただきたいと思います。私個人としては、各県のIT担当者と顔を合わせて交流し、実際に色々な意見を聞いたことがホームページの整備を行う上での参考と励みになりました。

また、四国ブロックが共同でこのような機会を設け、一丸となって事を進める姿勢に感動しました。今回の四国ブロックの取り組みが今後の研修のモデルケースになれば良いと思っています。

四国ブロック URL: <http://www.iyeo.or.jp/shikoku/>  
(四国4県ホームページはここからアクセスできます)



## 航空機派遣事業報告会 ～パネル・ディスカッションより～

### パネルディスカッションのコンセプト

参加青年に対して：多種多様な派遣国での体験を各自の派遣団内部だけではなく、他の派遣団とも分かち合いこれからの事後活動につなげていく。

来場者に対して：参加青年がどのような体験を派遣国で得て、そこからどのような感想をもち、これからの未来にどのようにつなげていくかについてを知ってもらう。

コーディネーター：黒川ひとみ（ジンバブエ派遣団）、水谷真由美（ジンバブエ派遣団）

パネリスト：岸さおり（オーストリア団）、山本一博（ジョルダン団）、長井明日香（メキシコ団）、吉田直子（ミャンマー団）、馬替弘道（スウェーデン団）、関 千春（ジンバブエ団）、矢口晃子（中国派遣団）、石崎好章（韓国派遣団）

黒川：それでは、本日のテーマを紹介します。皆様は既にご覧いただいていますように、今年度事業報告の全体スローガンは「築こう友情のネットワーク、紡ごう我らの未来」です。このパネルディスカッションもこのスローガンを大きなテーマとしており、この全体テーマに基づいて、各派遣国でのお国柄あふれる体験から、どのように現地で築いた友情のネットワークを発展させて行くかというその方法について議論していきたいと思っています。このような各団の違いを乗り越えた、共通する一つの事実はあるのでしょうか。

では、まずこの内閣府青年国際交流事業の航空機派遣事業に参加しようと思った理由と、派遣前・派遣中・派遣後の自分自身の変化について語ってください。

### オーストリア「中身をしることができる交流」

岸：私は、特にこの事業ならではの良さについてお話ししたいと思います。

オーストリアというのは、皆さん芸術の国であるとか、ウィーン少年合唱団で馴染みのある国だと思うんですね。私たちにとって行きにくい国ではありません。実際、私たちがオーストリアを訪問した時もたくさんの観光客の方を目にしました。ウィーンの市内でですね、モーツアルトのかつらをかぶった方がいっぱいいて、私たちを日本人だと認めると、近寄って来るんですよ。そしてコンサートのチケットはいらないかとか、もうヨハン・シュトラウスは聞いたか、モーツアルトは聞いたかっていうふうに質問してくるんですね。そういう日本人観というのもしっぱいありますし、観光客っていう、その旅行のイメージっていうのも私たちの中にも、そしてオーストリア人の中にも日本人のイメージとして定着しているところがあると思います。ですが、私たちは、内閣府の派遣事業として訪問したことで、とても幅広くオーストリアについて知ることができました。観光という表向きの面、それ

から第2次世界大戦で敗戦の後、ドイツに侵略されたという過去を持ちながら自分達もユダヤ人を迫害しつづけたという歴史。それから現在多くの難民を受け入れているというような、ヨーロッパの中の小国としていかに生き抜いていくかという知恵を少しずつ見ることができました。

特に私たちは、色々な提案をコーディネーターの方にさせていただきました。例えば私は大学で演劇を勉強しているので、芸術、オペラというものを見たいと希望を出していたんですけども、そのような観光客が行くようなオペラ座やコンサートだけではなくて、ウィーンの文化局の方、それからザルツブルクの市議会議員の方などとお会いして、いかにオーストリアの文化を守っていくか、オーストリアにたくさんの方が来て、私たちのこの築き上げてきた伝統を文化をいかに感じていただくかという努力を、実際肌で感じてくることができました。また、他の団員の興味によって観光、環境にとっても力を入れている国、それから、とても NGO が発達しているので、色々な面を見ることができたんです。その幅広い面を見るというのは、この事業でないとできなかったのではないかなと思います。表面だけではなく、その奥を見られたことがとても良かったと思います。

その反面、オーストリアの方が持ってらっしゃる観光客のイメージと違った日本人像をどれだけ見せられたかなという、その辺では若干疑問がありまして、日本団としていろんな人たちがいるんですよ、日本人はこんなことを考えているんですよと見せる場面がもう少しあれば良かったかなというところはあります。

黒川：それではユーラシア大陸を横断しまして、東アジアの大きな面積を占める国、中国に行かれて交流事業に参加された矢口さん、中国での体験をもとに何か語っていただけることはありますか。

### 中国「この事業でしか体験できないこと」

矢口：今現地の人との交流に関する話が出たんですけども、私は中国に行って、交流という点ではかなり充実していたなという感想をもって帰って来ました。

19日間の全行程の中でメインだったのは、四川大学での日本語学科の学生との合宿討論会、これは2泊3日で行われたんですけども、これがメインでした。私たちはそこで4つのグループに分かれまして、それぞれのテーマに分かれて議論をしたり、その他にもスポーツ交流をしたりだとか、一緒にご飯を作ったりなどしたんですけども、その中で普段なかなか聞くことができない中国人の方の本音っていうのに触れることができたなと思っています。

皆さん、一人っ子政策って聞いたことはあるんじゃないかと思います。人口爆発を防止するために、中国が行っている人口政策なんですけれども、日本人の私から考えてみると、ちょっと変わった政策で、実際にそれを行っている中国人の人がどういうふうに感じているのかなっていうのを前々からちょっと疑問に感じていました。それでそれを討論会で聞くことができて、みんな学生さんは当然一人っ

子なんですけれども、一人っ子政策に関して成果をある程度挙げているという点で正当であるし、やむを得ないけれども、もしそういう制度がなければ自分も兄弟が欲しいってみんな声をそろえて言ってたんですね。

上海では、ホームステイがあったんですけれども、そこには一人っ子の女の子がいました。ご両親は目に入れても痛くないくらいのかわいがりようで、小さい頃にその子が使っていた部屋があったんですけれども、そこはもうおもちゃしかないんですね。それで本当に欲しいって言ったものは何でも買って、与えられるような環境で、よく日本では中国の一人っ子のわがままさを例えて、小皇帝と言いますけれども、その女の子は実際そんなにわがままじゃなかったんですが、そういうふうに言われている実態っていうのを目の当たりにしたような一種の衝撃を受けました。

また小学校訪問がすごく印象に残っています。私たちが訪れたのは所謂エリート小学校だったんですけれども、一人っ子に対する周りの大人の教育への情熱っていうのはすごいものがあって、小学校2年生から英語の授業が始まったり、普段の算数とか国語の授業で一人一台のパソコンを使ったりとか、そういう現場を見て、正直言ってそれは私の想像を越えたものでした。

このように普段はメディアを通してしか知ることのできない、建前じゃなくて本音に実際触れることができ、それは一部でしかないけれども、すごくいい経験だったと思います。今皆さんに伝えたいのは、自分が全身の感覚を使って相手を感じる、これがすごい重要だなって感じたので是非お伝えしたいと思いました。

黒川：それでは次に、同じアジアの中にありながら日本からはなかなか行く機会のないミャンマーへ行かれた吉田さんに話していただきたいと思います。

### ミャンマー「自分で体験して、柔軟な頭で考える大切さ」

吉田：まず、私の伝えたいことを皆様にお伝えする前に、私がどのように国際交流を考えるか、それについてお話ししていきたいなと思います。



私自身の考えでは、国際交流ということは、「異文化の人同士、知らない人同士が会って好きになっていく過程」、それが国際交流の基礎の部分だと思います。今回私たちが行った内閣府の派遣事業は政府間の交流プログラムとして、受入団体は政府関係者でした。最初はぎこちなくお互いにコミュニケーションをとりあっていったんですが、だんだんそうした受入側の方と友情が深まって行って、40代ぐらいの方だったんで

すがミャンマーのお父さんとまで呼べるように近づいていきました。私は国際交流というのは、人々が知り合って好きになっていく人間的なつながりでそれに基礎を置いたものだと考えるようになりました。

そのような国際交流の認識から私が皆様にお伝えしたいことは2つあります。特にミャンマーに対しては、アウンサン・スー・チーと軍事政権の対立、軍事政権を悪玉として、アウンサン・スー・チーを善玉として、善悪の二分法で捉えようとする報道だとかイメージが多いと思います。そういったイメージや報道の偏り、それから情報に惑わされることなく、自分で現地に行ってそれを判断する姿勢、そういった頭の柔軟性が大切である。それをまず皆さんにお伝えしたいと思います。第二点目としては、立場の違いを認識することです。日本人からすると、お金と時間と機会さえあれば、自由に旅行に行ったり、外国に行ったりすることができると思うのですが、ミャンマーの場合は外国に出ることがとても難しいです。パスポートをとることも一般の方には容易ではありません。ですから、そういった状況を配慮しながらその国の人たちと付き合いしていくそれが重要であると考えます。



黒川：確かに色々な偏見や先入観というものを外国やその文化に対して私たちは持ちがちですが、そのようなものもなく、現地で自分の目で確かめることは大切だと私も実感しております。では、ジョルダンに行かれた山本さん、9月11日のテロ事件以後、改めて中東地域は世界から注目を集めていますが、ジョルダンではどのような体験をされて、そこからどのような考えを持たれましたか。

### ジョルダン「現地での体験とそこから学んだこと」

山本：ジョルダンぼく大好きですし、その体験した中で色々みなさんにお伝えしたいことはあるんですけど、今日は時間も限られてます。たぶんイスラム教ということに興味がある方も多いと思われるので、テロについて話したいと思います。まず現地の反応なんですけど、やっぱり現地の人はかなり喜んでいました。それこそお祭り騒ぎだったと言ってもいいくらい。でも、誤解してほしくないんですけど、ある意味そのような反応が仕方ないことだと思うんですよね。日本人と生きてる場が違いますし、ジョルダンはずっとそのサウジ・アラビアとかイラクとかいった強国に囲まれて石油も珍しく出ない中東の国なんです。大国同士の争いに巻き込まれることもあって、しかも、まだできて間もない国ですし、第二次世界大戦後曲がりなりにも平和を保ってきた日本とも違って、あの辺は色々争い

事も絶えません。

またジョルダンを話すうえで忘れてならないのは、パレスチナ難民の問題だと思うんですね。ジョルダンは、確か人口500万ちょっとだったと記憶しているんですけど、そのくらいの人口で150万人がパレスチナ難民なんです。これは、先日のイスラエル軍の爆撃で破壊されたパレスチナ自治政府の建物の映像なんですけど、ジョルダンの人間にすると、毎日そのジョルダン川の向こうで自分達の同朋がひどい目に遭ってるんだという認識がある訳なんです。

アメリカでの同時多発テロを喜ぶのはやっぱりしょうがない事だと思うんですね。彼らにとってはそんなにアメリカ人の知り合いがいる訳でもないですし、パレスチナの方が身近に思えて当然なんじゃないかと思います。アメリカの事件は痛ましい事件でしたが、痛ましいのはアメリカが攻撃されたから、死んだのがアメリカ人だったからじゃないのかというような疑問がジョルダンの人々全体にあると僕は思います。それはまあ無理ないことだと思いますし、そういう考え方があるということを知っておくべきだと思います。

そして誤解して欲しくないのは、彼らと僕たちの間にもものすごい隔たりがあって、もうわかり合えないのかということ、そういうことはないということです。結局彼らはアメリカ人に友達がいたりすれば、彼らにも自分達と同じような生活があって、同じように遺族が嘆き悲しんでるということがきっと想像できるんじゃないかと。日常会話の共有といったものこそが、お互いの想像力を養って平和な国際社会を築いてくことができるんじゃないかなと僕は思います。

もう一つ思ったのが、日本というのはどちらかというとアメリカと同じ西洋社会の側に立っていると僕は思うんですが、日本赤軍の話で想像されるかと思うんですけど、現地では日本人はなぜかアラブの側にいる訳なんです。日本も第二次世界大戦でアメリカと戦って、負けたけど可哀想じゃないかというような感じで、向こう側の人間という見られがちなんです。南アジアから中東のほうにおいて。

ある意味八方美人的なところが日本はあるのかもしれないですけど僕たち日本人はですね、これから交流をしていくうえで、その八方美人を十分に生かして、よく平和ボケとか言われますけど、平和ボケで結構だとみんなで平和ボケになろうじゃないかというような感じで、積極的にデメリットと言われる部分を日本のメリットとして生かした国際交流をやっていけたらいいのではないかなと思いました。

黒川：なかなか真摯に受け止めてこれからの未来を考えるうえで、踏まえていかななくてはいけない話題だと思います。（9月号に続きます。）

\* 9月号では、ジンバブエ団からの体験談、そして事後活動についての考え方や帰国直後に実行した活動についての内容を掲載します。



奈良県青年国際交流機構 新会員の声

平成13年度 メキシコ派遣 清原 裕美

本事業を通じてメキシコという国を、そして日本という国をもっともっと好きになりました。出会った人々の笑顔を忘れず、この経験を一人でも多くの人と共有しながら前へ進みたいと思います。

平成13年度 韓国派遣 喜多 聡

日韓派遣に参加してかけがえのないものをたくさん得ました。今後はIYEO奈良会長としていろいろがんばっていきます。

平成13年度 世界青年の船 相原 智代

今一言で「世界青年の船」の感想を言うならば、「一生続く友人の出会いとさまざまな可能性を秘めた自分の発見」だったと言えます。最初は英語があまりわからないと思い込んで緊張しガチガチでした。でもゲームやレクリエーションを通しながら言葉を使わない部分での交流をしていくうちに心が打ち解け、心が通じると言葉の壁も越え始め、しらないうちに肩を組み手をつなぎ、歌った

り踊ったり、そして語ったり。最後には離れるのが本当につらかったです。

また私の場合、日本を紹介するナショナルプレゼンテーションで「よさこいソーラン節」の踊りのリーダーとして練習を重ね、メンバーと共に参加者全員の前で踊りました。また自主活動でも活動を続け、海外参加青年とともに練習し、発表する機会にも恵まれました。

この船の素晴らしいところは、船での時間だけが交流ではなく、船を降りてからも続いていく人間関係であるところだと思います。世界に心のつながる友人がいるということが、これほどまでに心強いものだとは知りませんでした。

素晴らしい機会をくださいました関係者の皆さまに心からお礼を申し上げます。この素晴らしい体験を自分だけのものとするのではなく、さまざまな場面で還元させていただきたいと思います。私は教員志望ですので、教育の場で生の世界の声を届ける教師として、この体験を形にしていきたいと思っています。

東京に集まろう！ 第6回「青年の船」の皆様へ

お元気ですか？ 私たちは第6回「青年の船」（1972年）に乗船後、今年で30年を迎えました。そこで東京近県の人たちが幹事になり、東京にて30周年の集いをすると思い、今年9月21日（土）に「東京に集まろう！」を合言葉に同窓会の準備を進めています。

一重に30年と言いましても0歳の子供が30歳の青年淑女になってしまう月日。6回生は記年年には各地にて活動を行ってきました。これまで参加していただいた人たちはもとより、今まで一度も集いに出られなかった人たちもこの際是非とも

参加してみても如何でしょうか？ 詳細は後日。何かありましたら下記へ連絡ください。

芝崎 恭光	048-935-4896
八尾 牧子	047-439-0133
中村 裕子	03-3391-2883
石井 利和	047-338-1201
西田 操子	048-443-5595
宗像 恵子	047-438-6678
馬場 典子	042-338-8665
北野 隆生	044-853-2656
(代表)	

青少年国際交流事業事後活動推進大会  
日本青年国際交流機構18回全国大会  
第9回青少年国際交流全国フォーラム

2002 神奈川大会

～ヨコハマから感動を世界へ～

ワールドカップが終わったら全力投球!!

あなたと世界の交差点  
そんな…ヨコハマ物語 Part 2

古い建物と新しい施設の融合。そんな港町横浜で発展し続ける「みなとみらい21地区」の「パシフィコ横浜」をメイン会場に開催される全国大会に参加して思い出作りしてみませんか?

と き : 2002年11月23日(土・祝)～24日(日)

場 所 : パシフィコ横浜アネックス  
主 催 : 内閣府政策統括官(総合企画調整担当)  
(財)青少年国際交流推進センター  
日本青年国際交流機構(IYEO)  
神奈川県青年国際交流機構  
主な内容 : 基調講演・パネルディスカッション・  
交流パーティー

連絡先

酒井敏之(全国大会実行委員会委員長)  
(第6回「東南アジア青年の船」参加)  
神奈川県鎌倉市岩瀬1-34-9-604  
TEL&FAX 0467-42-6428  
E-mail toshis@aurora.ocn.ne.jp

平成14年度内閣府青年国際交流事業国内受入れの予定

第16回「日本・韓国青年親善交流」事業  
招へい日程 11月6日～21日  
地方受入れ 宮城県(11月9日～12日)  
北海道(11月12日～15日)  
大阪市(11月15日～18日)

第24回「日本・中国青年親善交流」事業  
招へい日程 11月12日～12月1日  
地方受入れ 千葉県(11月15日～18日)  
岐阜県(11月20日～23日)  
徳島県(11月23日～26日)  
熊本県(11月26日～29日)

※11月18・19日には、日中韓3か国交流として「日本・韓国青年親善交流」事業と「日本・中国青年親善交流」事業の参加者と日本青年の合同による「日・中・韓3か国セミナー(仮称)」が(独)国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催される予定です。

平成14年度 内閣府青年国際交流 国内プログラム  
ボランティアスタッフ&参加青年の募集について

昨年度に引き続き、今年度も数多くの外国青年が日本へ来日する予定です。興味のある方は下記まで資料請求をご連絡ください。また、IYEO 会員以外で国際交流に興味がある方もお誘いください。(注:ルネッサンス青年リーダー招へいについては、内閣府青年国際交流事業参加者のみの募集)

## 【内閣府青年国際交流事業】

事業名	日にち	ボランティア募集人数
第29回「東南アジア青年の船」事業 9月8日～9月17日実施	9月12日(木)課題別視察	3名×13コース(予定)
第15回「世界青年の船」事業 10月22日～10月29日実施	10月24日(木)課題別視察	5名×6コース(予定)

\* 日常会話程度の英語力は要する

## ルネッサンス青年リーダー招へい事業

## ☆ ヤング・リーダーズ・フォーラム☆

9月27日～9月29日実施

【参加青年募集(2泊3日)】

① リーダーシップ      ②環境

③ マスコミュニケーション   ④教育

各コース5名程度募集予定

参加資格:25歳以上 39歳未満

[9月26日現在]、要英語力



\* 5月号のヤング・リーダーズ・フォーラムの日程が9月28日から30日となっておりましたが、9月27日から29日の間違いでした。お詫びして訂正させていただきます

## 【問い合わせ及び資料請求先】

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-35-14 東京海苔会館 6階  
〔財〕青少年国際交流推進センター

TEL:03-3249-0767 FAX:03-3639-2436 E-mail:hq@iyeo.or.jp

担当:田中・渡辺・本田

## 平成 14 年度青少年国際交流を考える集い（ブロック大会）開催日程

平成 14 年度ブロック大会の開催日程は以下の通りとなっております。詳細は開催時期に合わせ、マクロコズム、Bulletin Board、IYEO ホームページ等でお知らせしていく予定です。

ブロック	開催府県	開催日	ブロック構成都道府県
北海道・東北	秋田県	10月26日～27日	北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島
関東	神奈川県	11月23日～24日 (全国大会と同時開催)	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨
北信越	新潟県	9月21日～22日	新潟・長野・富山・石川・福井
東海	静岡県	9月14日～15日	静岡・愛知・岐阜・三重
近畿	滋賀県	平成 15 年 1月25日～26日	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山
中国	島根県	6月22日～23日	鳥取・島根・岡山・広島・山口
四国	香川県	8月24日～25日	徳島・香川・愛媛・高知
九州	長崎県	平成 15 年 2月1日～2日	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

## 編集後記

サッカーは、日本は残念ながらベスト 8 に届きませんでした。頑張っている選手の姿に力づけられた方も多かったことと思います。スポーツの

素晴らしさを改めて感じた 1 か月でした。夏を迎えて、交流の季節が始まります。こちらも頑張りましょう。

\* 本誌の年間講読をご希望の方は、財団法人青少年国際交流推進センターまで葉書又は FAX にてお申し込み下さい。年間講読料は 1,500 円です。

MACROCOSM (マクロコズム) 7月号 Vol.47 2002年7月1日発行 (隔月発行)

編集：マクロコズム編集委員会

発行：財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail [hq@iyeo.or.jp](mailto:hq@iyeo.or.jp)

URL <http://www.centerye.org>

<http://www.iyeo.or.jp> (IYEO)

編集協力：内閣府政策統括官

(総合企画調整担当)

日本青年国際交流機構

定 価：198 円 (本体 189 円)

印刷所：株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960



▲ 青年ボランティア世界会議プレ大会  
in NAGANO を開催して (長野県)



▲ 国際交流を深める鳥海山麓の集い  
(秋田県)



内閣府青年国際交流事業壮行会  
(徳島県)

タイ王国福祉施設訪問団団員派遣

バンコクのスラムで活動をしているデュアン・プラティーブ財団にて、  
▼ プラティーブさんに寄付金を授与している安東敏真会長 (大分県)



平成十五年度内閣府青年国際交流  
事業説明会 (大阪府)



デュアン・プラティーブ財団の教育里親制度  
の里親になった大分県青年国際交流機構副会  
▼ 長の星子英子さん。里子との対面 (大分県)





1973年2月14日。一隻の大型客船が横浜を出航しました。

歴史的な日本初の世界一周クルーズへの出発です。それが、初代「にっぽん丸」。

現在の「にっぽん丸」はそれから数えて3代目です。この間、私たちは、

日本のクルーズの先駆者として、新しいクルーズや様々なサービスを開発してきました。

例えば、日本船初めての展望浴場などは、ほんの一例。また、私たちの長い経験の集大成である独自の船内プログラムが、他の日本客船全てのお手本になっていたりもします。

ところで豪華客船でのクルーズと言うと、リタイア後の老夫婦がのんびりと旅をされている

イメージをお持ちではないでしょうか。でも、「にっぽん丸」に乗船してこられるお客様は、

驚く程アクティブな方が多いのです。いや、アクティブになられると言った方が正しいのかもしれない。

これまでの人生になかった新しい体験を、船の上で得た新しい仲間達と一緒に食欲に吸収されるのです。

自ら進んで何か新しいものを得ようとする気持ちを冒険と言うとすれば、

冒険には年齢や性別なんて関係ない、私たちは、そんな皆さんの想いを満足させることを

一番大切に考えています。そして私たち自身も、お客様に負けないくらいに、

いつも新しい事に挑戦して行こうと思っています。

これまでも、ずっとそうして来たように。

東北の夏祭りクルーズ

夏の濟州島クルーズ

阿波踊りと瀬戸内海周遊クルーズ

夏休み 東京ワンナイトクルーズ

仲秋の仙台クルーズ

ウェルネスクルーズ・初秋の伊豆諸島周遊

秋の日本一周クルーズ・Aコース

2002年8月2日(金)～8月7日(水)6日間

2002年8月8日(木)～8月12日(月)5日間

2002年8月13日(火)～8月16日(金)4日間

2002年8月30日(金)～8月31日(土)2日間

2002年9月13日(金)～9月15日(日)3日間

2002年9月11日(水)～9月13日(金)3日間

2002年9月1日(日)～9月10日(火)10日間

横浜/秋田/青森/横浜 230,000～818,000円

横浜/濟州/横浜 158,000～568,000円

横浜/小松島/東京 132,000～472,000円

東京/東京 40,000～142,000円

東京/仙台/東京 88,000～298,000円

東京/東京 72,000～284,000円

東京/神戸/郷ノ浦/敦賀/酒田/青森/東京

318,000～1,278,000円 \*区間乗船B～Eコース<4日間～9日間/108,000～1,136,000円>もあります。

冒険する生活を選びました。

冒険する生活  
にっぽん丸


2003年世界一周クルーズ 2003年4月4日(金)～7月15日(火)102日間 東京/神戸/廈門/シンガポール/コーチン/スエズ/  
アレキサンドリア/クシャダス/ナポリ/バルマ/カディス/ルアーブル/アムステルダム/サンクトペテルブルク/  
ヘルシンキ/オスロ/レイス/リバプール/ダブリン/ハミルトン/キーウエスト/ニューオリンズ/コズメル/  
カボサンルーカス/サンディエゴ/バンクーバー/ジュノー/東京/神戸 3,800,000～12,600,000円  
上記代金は、大人お一人様の代金です(グループ3・ステートルームB/1室3名 ※世界一周クルーズはステートルームC/1室2名～スイートルーム/1室2名ご利用  
の場合)。その他のクルーズもご用意しております。お問い合わせは、お近くの旅行会社または商船三井客船クルーズデスクまで。詳しいパンフレットがございます。



にっぽん丸は、米国公衆衛生局(USPH)による船舶衛生  
検査において、3年連続で日本船最高得点を獲得しました。

クルーズデスク フリーダイヤル

☎0120-791-211

 商船三井客船

<http://www.mopas.co.jp>

行ってらっしゃい、  
いい旅へ。



豊富な経験と実績を生かして、いちばんの旅をおつくりします。  
大きな感動と、心に残る出会いのために。私たち東急観光は、総合力でお応えします。豊富な商品と旅のプロフェッショナルが、個人旅行から団体旅行まできめ細かく対応。全国網の支店と海外の主要拠点を結ぶ、充実のネットワーク。お客様一人ひとりのご要望と目的にあわせて、旅のプロローグからエピローグまで演出します。あなたにいちばんの満足を。

—— 旅のすべてを知っている東急観光です。 ——

豊かな感動のステージへ  
**東急観光**

運輸大臣登録旅行業第38号 ©日本旅行業協会正会員  
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号  
<http://tour.tokyu.com>